

06 その後の人生に打撃

- 電車に乗ろうとすると過呼吸になり仕事を辞めた
- 15年以上、一人で外出したことがありません
- 頻繁なフラッシュバックで受験勉強に支障
- 学校に行けなくなった ● 好きな服を着なくなった
- 男の人が怖くなった ● 病院に行かなくなった



「思い出したくない」という記述も多数。
一人一人の人生に深刻な打撃を与え続けている。



- 痴漢は許されない性暴力、性犯罪
痴漢が被害者に深い傷をおわせ、許されない性暴力であることへの理解を広げる必要があります。

◀2021年12月19日
京都市民報より

▼京都市交通局への申し入れ



- 痴漢対策の強化を申し入れ
警察、行政、鉄道各社に受験期の痴漢対策強化を申し入れ、駅のホームのテロップや音声による注意喚起などが実現しました。

あなたの声を
政治に届ける

日本共産党

たけやまさいこ
Twitter→



党府ジェンダー平等委員会
事務局長
たけやま さいこ



JCP
京都

4月号外 発行/日本共産党京都府委員会
京都市中京区丸太町新町角大炊町186 電話 075-211-5371
日本共産党京都府委員会は以上の見解を発表しました。

日本共産党
ジェンダー
政策→



#痴漢ゼロ #性暴力を許さない #痴漢被害調査

私たちの社会は、痴漢という性暴力について、「ささいな出来事」と軽くあつかってきたのではないのでしょうか。痴漢被害は決して「個人的な問題」ではなく、政治が正面から取り上げなければならぬ、性差別に基づく暴力であり、人権の問題であり、犯罪です。

実施期間
4月~5月

あなたの声を、
聞かせてください。

痴漢ゼロをめざし、
アンケート調査に
ご協力下さい。



左記のQRコードまたは
<http://bit.ly/3iV15YE>
からアンケートページに
お進み下さい。

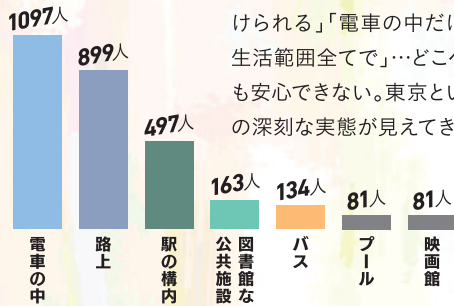
日本共産党京都府ジェンダー平等委員会



痴漢被害の実態

日本共産党が2020年8月、東京でおこなった痴漢被害のアンケート(1435人)からは深刻な被害の実態が浮き彫りになりました。

01 あらゆる生活空間で



「買い物しにただけであとをつけられる」「電車の中だけでなく生活範囲全てで」…どこへ行っても安心できない。東京という都市の深刻な実態が見えてきた。

02 何度も何度も

「覚えきれないほど日常的にある」「高校3年間の行き帰り、ほぼ毎日」…一人の人が人生の中で何度も何度も被害にあっている。

小学生のとき

中学生のとき

高校通学時

大学で

就職して

通勤時

買い物で



03 暴力、脅し、盗撮も

刑法に抵触するもの、その未遂とみられるものも多数寄せられた。「怖かった」「気持ち悪かった」「悔しい」「尊厳を踏みにじられた」…深い傷が。

「静かにしろ」と耳元で

なく殴られた

背後から抱きつかれ口を塞がれた

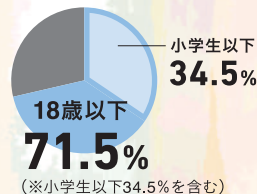
精液をかけられた

盗撮された

腹部にカッターをあてられた

04 子どもがターゲットに

初めて被害を受けた年齢は、18歳以下が7割。「子ども・未成年への性暴力」として特別な対策も急務だ。



05 「何もできなかった」

被害にあった時どうしたか

駅員に通報した 5.2%

「周りが助けてくれた」は6.4%。孤立し、ほとんど声を上げられない実態も浮かんだ。駅員に通報したことがある人は5.2%と合わせて少数だった。

何もできなかった 54.8%



詳しい結果はこちらから→